

2025年度第1回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 白梅賞

白梅（しらうめ）は、白色の花をつける梅。梅は、中国原産のバラ科の落葉高木。花は早春、葉に先立って開く。果実は球形の核果で酸味が強く、梅干しや梅酒に加工される。花言葉は「気品」「忍耐」。

○ 許波多特別

許波多（こはた）は、京都府宇治市の地名「木幡」の元となったもの。許波多神社が有名。皇位継承をめぐる壬申の乱の時に大海人皇子（後の天武天皇）が戦勝を祈願したと言われている。また、競馬発祥の神社としても知られ、古代から祭礼行事として競馬（くらべうま）が行われていた。

○ 舞鶴ステークス

舞鶴（まいづる）は、京都府北部の市。幕末までは田辺城の城下町として、明治以降は旧日本海軍の軍港として栄えた。海岸は若狭湾国定公園に含まれ、入江と岬が織りなす天然の造形美が雄大に広がる。

<第2日>

○ 天ヶ瀬特別

天ヶ瀬（あまがせ）は、京都府宇治市の地域。天ヶ瀬ダムは、淀川支流宇治川の峡谷部に位置するアーチ式ダム。洪水調節・発電・上水道供給を担う特定多目的ダムで、堤高 73m、幅 254m。京滋バイパスを利用することで大津市・比叡山・石山寺にも近く、観光客が多く訪れる。

○ 八坂ステークス

八坂（やさか）は、京都市東山区祇園町の地名。八坂神社の例祭は祇園祭と呼ばれ、7月に行われている。特に 16 日の宵山、17 日の神輿渡御と山鉦巡行、24 日の還幸と花傘巡行が名高く、東京の神田祭、大阪の天神祭とともに日本三大祭と称されている。

○ シルクロードステークス（GⅢ）

本競走は、1996年に創設された重賞競走。2000年に『高松宮記念』が3月に移設されたことに伴い、本競走の実施時期も従来の4月から現在の時期に変更となった。また、2002年より負担重量が別定重量からハンデキャップへ変更となっている。

シルクロード（Silk Road）は、中央アジアを横断する古代の東西交通路の名称。名は、絹が中国からこの道を通って西方に運ばれたことに由来する。奈良の正倉院には、シルクロードを通じて伝わったとされる中国製やペルシア製の宝物が数多く現存している。

<第3日>

○ 橿原ステークス

橿原（かしはら）は、奈良県中西部の市。中世には、市の中心部が寺内町として発展した。神武天皇の皇居は、畝傍（うねび）橿原宮と呼ばれ、現在の橿原神宮は、その皇居跡と推定される地に建てられた。

○ エルフィンステークス（L）

エルフィン（Elfin）は、「小さい妖精のような」を意味する英語。チュートン民話において、魔力をもった妖精は、森や野に住み、いたずら好きとされている。

○ アルデバランステークス

アルデバラン（Aldebaran）は、おうし座の一等星。アラビア語で「後に続くもの」を意味する「アル・ダバラン」に由来する。カペラ・ポルックス・プロキオン・シリウス・リゲルと共に「冬のダイヤモンド」を構成している。

<第4日>

○ 斑鳩ステークス

斑鳩（いかるが）は、奈良県北西部、生駒郡の町。名は、聖徳太子が造営した斑鳩宮跡に由来する。法隆寺・中宮寺・法輪寺などの社寺があり、仏教の中心地である。町内西部の竜田川流域は県立竜田公園として整備され、紅葉の名所として知られている。

○ 令月ステークス

令月（れいげつ）は、陰暦2月の異称。また、何事をするにも良い月のこと。

○ きさらぎ賞（GⅢ）

本競走は、1961年に創設された3歳馬の重賞競走。当初は中京競馬場で実施されていたが、1987年から京都競馬場に舞台を移した。また、幾度かの距離変更を経て、1991年に現行の芝1800mとなった。

きさらぎ（如月）は、陰暦2月の異称。

<第5日>

○ こぶし賞

こぶしは、モクレン科の落葉高木。名は、つぼみが握りこぶしに似ていること、果実に握りこぶし状の凹凸があることから付けられた。花言葉は「友愛」「歓迎」。

○ 飛鳥ステークス

飛鳥（あすか）は、奈良県高市郡明日香村一帯の地域。6世紀末から7世紀にかけて、この地に天皇の宮が多く所在した。この時代を飛鳥時代と呼び、同地域には、当時を偲ぶ飛鳥寺や高松塚古墳などの史跡がある。

○ 洛陽ステークス（L）

洛陽（らくよう）は、平安京の左京の称。右京を長安と称するのに対する。また、京都の異称。名は、後漢など中国の王朝の首都であった洛陽に由来する。

<第6日>

○ 春日特別

春日（かすが）は、奈良市およびその周辺地域。特に、奈良市春日野町にある春日大社の付近を指す。同社は、1998年に「古都奈良の文化財」のひとつとして世界遺産に登録された。

○ 北山ステークス

北山（きたやま）は、京都北方の船岡山・衣笠山・岩倉山などの諸山の総称。また、京都市北部の通りの名。室町幕府の3代将軍足利義満が山荘を営んだ京都北山にちなんで、当時の文化を北山文化と呼ぶ。

○ 農林水産省賞典京都記念（GⅡ）

本競走は、1942年に創設された重賞競走。1950年までは芝3000m～3500m、1952年以降は2000m～2200mで実施されていたが、1969年から2400mに延伸された。また、毎年春・秋の年2回実施されていたが、1984年より年1回となり、1994年には距離が2200m、負担重量がハンデキャップから別定重量へと変更された。

<第7日>

○ つばき賞

つばきは、ツバキ科の常緑高木。関東以北では海岸地帯に点在し、ヤブツバキとも呼ばれる。日本では古代より植栽されており、観賞花として品種改良が行われた。花言葉は「完全な愛」「誇り」。

○ 河原町ステークス

河原町（かわらまち）は、京都市中央部を流れる鴨川西岸沿いに発展している通りおよびその周辺地域。安土桃山時代に豊臣秀吉が築いた御土居（京都を囲んだ堀）の外にある。河原町三条から四条河原町にかけては繁華街となっている。

○ 阪急杯（GⅢ）

本競走は、1957年に創設された『宝塚杯』を前身とする重賞競走。創設当初は、芝2200mで実施されていたが、1960年に1800mに短縮され、その際に現在の競走名に改称された。以降、幾度かの距離変更を経て2006年より1400mで実施されている。本年は、京都競馬場において実施される。

なお、第1着馬には同年の『高松宮記念』への優先出走権が与えられる。

阪急電鉄株式会社は、大阪市北区に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ 山城ステークス

山城（やましろ）は、五畿内のひとつで、京都府南部にあたる旧国名。古くは「山代」と書いたが、山河が襟帯しており、城を成す形をしていることから、794年の平安京遷都時に改字されたと言われている。

○ マーガレットステークス（L）

マーガレット（Marguerite）は、カナリア諸島原産のキク科の多年草。晩春から夏にかけ、一般に中央が黄色で周囲が白色の花をつける。花言葉は「心に秘めた恋」「貞節」。

○ 大和ステークス

大和（やまと）は、奈良県全域を占める旧国名。五畿内のひとつで、飛鳥京・藤原京・平城京などの都が置かれ、室町時代初期までは寺社が大きな勢力を誇っていた。1876年に堺県（現在の大阪府堺市）と合併し、1887年に奈良県として分離した。また、日本の異称としても用いられる。